



喜びは2倍に悲しみは半分に

保護者の皆さまは、この言葉を聞いたことがある方も多いでしょう。『喜びは2倍に悲しみは半分に』。夫婦や家庭の役割と言ってもよいでしょうか。お互いに助け合って、うれしいことはともに喜び合って、つらい時や悲しい時はお互いに励まし合って生活していくと、どんなにかいいでしょう。

うれしいことには無関心「ふーん」、つらい時や悲しい時に限って相手を責めまくる「なんでそんなことすんねん」「お前が悪い！」なんてやってしまうと、どうなるでしょう。『喜びは半分に悲しみは2倍に』なってしまいます。

学校では、まずは学級が家庭のようなものです。理想としては『喜びを2倍に悲しみを半分にできる』学級集団です。そこには、助け愛、励まし愛がなければなりません。仲間を思いやる優しい心がないといけません。本当に心の底から、学級の仲間が何かできたりうれしかったりしたことがあった時、みんなで拍手して「おめでとう」「よかったね」と言えるかどうか。そんな学級はどんなに素晴らしいものでしょう。

子ども達は、いろんなことを経験しながら人の気持ちを考えることを学んでいます。どうすれば人と人との良い関係を作れるのか、自他の言動を振り返ることで少しずつ分かってきます。よい学びをしているかどうかは、例えば、自分が相手の気持ちを無視したり傷つけたりにした時に、素直に「ごめん」と謝っている姿や、困っている人に優しい言葉をかけている姿から感じられます。

学級の基本の一つは困っている人を助けるということです。そのためには、困っているということをわからなければなりません。そう感じられる心を育てないといけません。小学校1年生からの6年間で、子ども達は大きく成長します。自分中心の考えから、「仲間」ということに目を向けてきます。

人は、まず自分のことを中心に考えて、自分のしたいことを人に要求する。そして、その要求が受け入れられて、満足する。この段階から発達していきます。次に、自分のことだけではなく、周りの人とかかわっていく。2～3人の小さなグループから、だんだんと多くの人と、いっしょになんとかうまくやっっていこうとするようになります。学校の学級は、大きなグループです。たくさんの人とともに生活していくのだから、自分だけのことを考えていたらうまくいくはずがありません。人の気持ちを考えないとトラブルばかりになってしまいます。今この人はどんな気持ちなのだろう、もし失敗をしたとしても、「気にするなよ」その人の気持ちを想像してあげてほしいと思います。その日までの目に見えない努力、準備をしてきたことを「ありがとう」「ご苦労さま」と感じる子どもであってほしいのです。

山直南小学校は、学年一学級の小さな規模の学校です。入学した時から6年間ともに学校生活を送り、ともに学びます。助け愛、励まし愛があつてこそ、『喜びは2倍に悲しみは半分に』できる学級集団となるのではないかと思います。保護者の皆さま、最も身近にいる人生の先輩として、未来ある子どもにこのようなことをどうか語っていただきたく存じます。